

# 光照院たより

発行：(宗)光照院  
発行日：平成30年5月18日  
台東区清川1-8-11  
TEL. 03-3872-8487  
FAX. 03-3875-5485

## 「こども極楽堂」運営開始

### こども極楽堂完成

学校にも家庭にも居場所のない子どもの安心できる場を作ろうと、一昨年から計画を進めていた「こども極楽堂」が昨年10月に完成し、運営が開始されました。現在、毎週火・木2回の無償学習支援「こぼと」と、月2回の子ども食堂が行われています。子どもたちも、食堂の運営主体である「NPO 台東区の子育てを支え合うネットワーク」のメンバーも、双方こども極楽堂になじみ、楽し気な子どもたちの声が響きます。子ども同士で美味しく、子ども同士で美味し、そうに食事をいただいている姿には、見て嬉

しそうな表情になります。

こども極楽堂では、子ども食堂の他にも、子どもを失った親や大きな喪失体験をした子ども、の心をケアする活動や、音楽を用いながら乳幼児と母親のコミュニケーションを円滑にさせるリトミックという取り組み等も行われる予定です。また、仏教的情操教育を念頭に置いた念佛会も開始しました。

### 目指すところ

こども極楽堂でにぎやかに、楽しそうに振る舞う子どもたちですが、なかには虐待などの深刻な問題を抱えている子もいます。その子が「幸せだなあ」と感じて

光照院住職 吉水裕光

副住職 吉水岳彦

もらえるようになるために、どのように支えていったらよいのか、まだまだ課題が多くあると実感します。居場所ができて、運営が開始された今からが大切なのでしよう。住職・副住職共に覚悟を決め、目指す「子どもの幸せ」を求めて学びを深め、愛情を注

ぎ続けることを仏前に誓いました。

### 不思議なご縁

私どもがそんな誓いを立てるに至ったのは、学習支援に通う子どもたちの姿を見たことだけではありません。今年3月に光照院で行われた結婚式、新郎新婦の話に影響されたことも大きな理由です。

光照院は、東日本大震災発災後、檀信徒と共に幾度も被災地へ支縁に



こども極楽堂で披露宴をした2人

向かいました。その際に、縁あって都内の児童養護施設で生活していた青年と一緒に現地に入ることがありました。彼は一生懸命練習していたギターを仮設住宅で演奏し、出会う人たちを元気づけてくれました。

それから7年、彼は苦勞しながら大学に通い、今年ついに大学院に入学して対人援助についての高度な専門研究を行うに至りました。これも極楽堂が完成して、その彼が力を貸してくれることになり、再び一緒に支援活動を行うことになったのです。

それだけでも嬉しいことでしたが、なんと彼は、施設で一緒に育ってきた女性と結婚したいとの話を聞かせてくれたのです。「感無量」とはこういう時に使う言葉なのでしょう。不思議なめぐりあわせのなか

で、光照院で2人の結婚式が執り行われることが決まったのでした。

### 結婚式における誓い

結婚式の予定が決まると、生活に余裕もない若い2人のために、彼らの育った施設の関係者が白無垢やドレス等を、光照院檀信徒の割烹「細井」は、特別なオードブルを一生懸命にご用意くださいました。また、ひとさじの会からもウエディングケーキを提供し、本当に手作りであったたかい結婚式となりました。

仏式結婚式当日、新郎と新婦がご本尊様を前に「新郎・新婦は、幼少期に実の親からの虐待を受けて同じ児童養護施設で育ちました。すなわち、私たちにとって家庭とは、自身を苦しめるモノでしかなかったのです。しかし、そんな私

たちも、さまざまな人からの愛情を受けることで、今日ここに結婚して家族となるに至り、今宵新たに自分たちの家庭を持つことになりました……」という誓いの言葉が震えました。

愛してくれると信じて疑わない親からの暴力は、子ども時代の彼らにとってどれほど恐ろしいものだったでしょう。家庭や愛情という名の元に彼らを縛りつけ、見えない囲いの中に苦痛のうちに閉じ込めていたのでしょうか。それは筆舌に尽くしがたい壮絶な体験であったと思います。

そんな環境で育った彼らが結婚して新たに家族となることを決意できたのは、血縁ではないけれども、彼らに惜しみない愛情を注いできた人たちの存在があ

り、さらに自分の親とは違う大人のモデルをたくさん見ることができたからだと思います。彼らの誓いの言葉を聞き手を取り合う姿を目にして、どんなに問題行動がある子どもに対しても、私どもは子どもに愛情を注ぎ続けること決意したのでした。

### 慈しみの心

お施餓鬼法要は、自分の子どもだけをかわいがって他の子を慈しむことがなかったため、餓鬼道に堕ちた木蓮尊者の母親を救うところ

から生じた儀式です。亡き先祖たちの供養のためだけでなく、苦しい環境の中で生きてゆかねばならない人たちのためにも、慈しみを施す心を起すことも、この法要に捧げる大切な供養になることでしょう。

光照院檀信徒のみなさまにも、ぜひともお念仏を称えて御仏の救いの光を仰ぎつつ、他者に豊かな愛情を注ぐことができる慈しみの心をお育みいただければ幸いです。

合掌



金井塚上人僧侶の証「度牒」を手に

### 光照院に新弟子!

昨年秋、真剣な眼差しで出家を求めて光照院にやって来られた方がいます。それが金井塚龍生(かないづかりゆうしょう)さんです。亡き大切な人のために、そして、長年勤めた仕事を終えて新たな生き方を模索する中で、僧侶として生きる道を強く望まれたのでした。

でも、いきなり光照院に來たわけではありません。さまざまなお寺や僧侶のもとを訪ねて相談してきました。しかしながら、どうしても師弟の契りを結ぶに至らなかったのだそうです。それでも金井塚さんの求道の気持ちは衰えることなく、ついに光照院の住職とめぐり会ったのです。

強い求道の志を感じた住職は、光照院の弟子

として育成することを決めました。金井塚さんは今年一月、ついに光照院で得度式を終えて僧侶としての第一歩を踏み出しました。光照院檀信徒のみなさまには、大きな法要等でお会いすることになろうと思いません。ぜひともよろしくお願い申し上げます。

合掌(副)

### ベトナム探訪

昨年11月、副住職はベトナム国寺という、ベトナム仏教の中心地にお招きをいただき、日本の法要を厳修していただきました。また、せっかくの機会なので、現地の仏教にたくさん触れてまいりました。

ベトナムは日本と同じく大乘仏教の国で、仏教徒同士が出会う時は「アジダファ(阿弥陀仏)」とお念仏で挨拶が交わされるほど、信心深

い人の多い土地柄です。そのため、国寺での法要が終わると、私を含む日本人僧侶はまるで人気のアイドルのように取り囲まれて写真撮影を求められるほどでした。日本とベトナム、同じ大乘仏教の国なのに、いったいなぜこれほどに違うのでしょうか。

一つの大きな違いは、僧侶が「死の象徴」ではなく「福德の象徴」と捉えられている点です。ベトナムの僧侶は、日頃から困っている人たちの相談を聴き、必要に応じて具体的な施しをいたします。その生き方が慈悲深く美しいので、信者たちは憧憬を懷いて仏教を真剣に学びます。若者も高齢者も子どもたちも、慈愛に満ちた行為を率先して行います。それが自分の幸福であり、人徳を増すことを実感しているからです。

この旅で、仏教を伝える僧侶の人徳の高さが仏教的幸福な生き方を伝えるのに重要なことを痛感いたしました。ここで気づいた未熟さを、成長に変えてゆけるように、まずはわたし自身が一歩一歩精進して参ります。みなさま、今後とも厳しくお育て下さいませ。

合掌(副)

### ひとさじの会活動

副住職が代表をつとめる社会的に弱い立場の方々を支縁する「ひとさじの会」の活動は、毎月第一・第三月曜日15時から光照院にて行われています。もしご興味がございますしたら、どうぞ遠慮なくお越しくださいませ。一緒におむすびを作って、良いご縁を結びましょう。



### 貧困・子供支縁御礼

日頃より、光照院や副住職の行う生活困窮者や子どもの支縁にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。誠にありがとうございます。昨年のお十夜以降も、多くの檀信徒のみなさまから多大なご寄付を賜りました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。誠にありがとうございます。

今後も光照院では、出来る限り人と人との縁を支える「支縁」活動を展開してまいる所存です。みなさま、ご理解とご協力のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

合掌

### 光照念佛会のご案内

光照院では、毎月お念仏とお写経を行う会を行っています。開催日は、基本的には毎月第三

土曜日の十五時から二時間を予定しています。みなさまのお越しをお待ちしております。

〈念佛会の流れ〉

- 十五時 茶話会
- 十五時半 法話
- 十六時 写経
- 十六時半 念佛回向
- 十七時半 終了

お施餓鬼会のご案内

《日程》

六月十日(日)

《御齋(昼食)》

十一時三十分から

《法話》

十二時十五分から

《法要》

十三時十五分から

※法要の出欠と塔婆の申込、ご参詣の人数を同封のハガキにて必ずお知らせください。

光照院行事予定

《月例行事》

・第三土曜日

光照念佛会

・第一第三月曜日

ひとさじの会

《年中行事等》

平成三十年

・六月十日(日)

大施餓鬼会法要

・七月十日～十五日

お盆(新暦)

・八月十二～十六日

お盆(旧暦)

・九月二十～二十六日

秋彼岸

・十一月十一日(日)

十夜・放生会法要

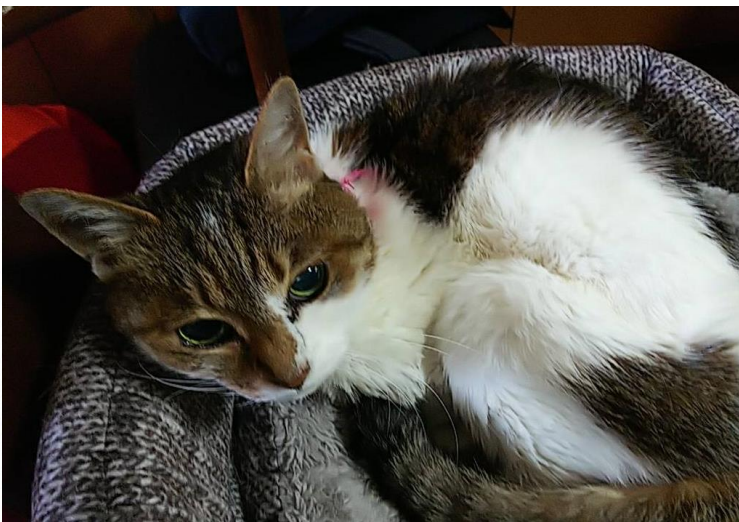
※これはあくまでも予定です。何らかの理由で変更することもあります。ご了承ください。

お佛具料ご寄進

- 爲 到蓮豊称大姉 33 回忌追善菩提
- 春岳博道居士 37 回忌追善菩提
- 浅室寿光妙元大姉 50 回忌追善菩提
- 一金 貳拾萬圓 施主 宮本健一殿
- 爲 三宝院良教誠願居士 100 カ日忌追善菩提
- 一金 壹百萬圓 施主 島田 潤殿

光照院へのアクセス

台東区循環バス「北めぐりん」「浅草駅」から乗車し、光照院そばの九番「清川一丁目」停留所で降車ください。また、「甲42南千住車庫ゆき」バスご利用の場合は、「浅草松屋前」停留所から乗車し、「東浅草」停留所で降車ください。



2018年春、あかし19歳になったの！！

てらねこ沙羅の一句

美ネコの秘訣  
数あれど  
ミルクひとすじ  
十九年  
若いネコにも  
負けにやいわ  
てらねこ  
沙羅拜